

7. 水源地域動態

7.1 評価の進め方

7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は、大きく2つの観点から行った。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理開始以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理した。この結果に基づき、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等について評価した。

もう一つの観点として、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行った。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行った。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討した。

7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの観点により評価を行った。

作業のフローは、図7.1-1に示すとおりである。

(1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口・産業等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握した。

(2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握した。

また、猿谷ダム周辺施設の利用状況・地域交流・各種イベントの内容・参加人数等を整理するとともに、これまでダムに訪れた人や地元住民から寄せられた意見・要望等から猿谷ダムに対する意識を把握した。これらのとりまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握した。

(3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、地域におけるダムの位置づけについて考察を行った。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年を含むこれまでのダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価した。

(4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理した。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行った。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めた。

(5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理した。

また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行った。

(6) まとめ

以上のとりまとめ結果から、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理した。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめた。

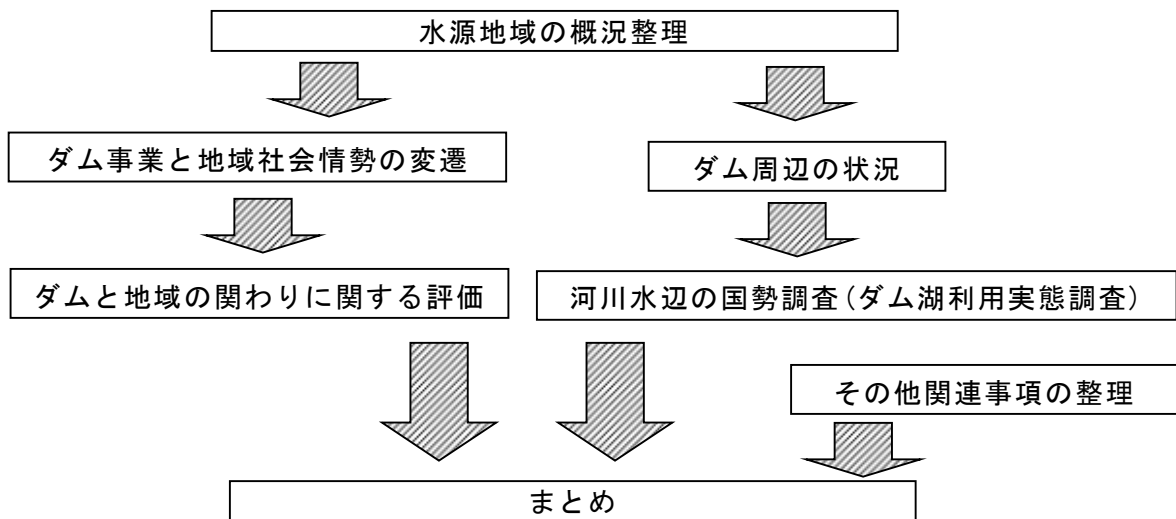


図 7.1-1 評価手順

7.2 水源地域の概況

7.2.1 水源地域の概要

(1) 水源地域の位置

九頭竜川流域は、福井県嶺北地方の7市4町(大野市と旧和泉村が合併、福井市と旧清水町、旧美山町が合併、旧芦原町と旧金津町が合併しあわら市、旧坂井町と旧春江町、旧丸岡町、旧三国町が合併し坂井市、旧朝日町と旧織田町、旧宮崎村が合併し越前町、旧今立町と旧武生市が合併し越前市、旧南条町と旧今庄町、旧河野村が合併し南越前町、旧上志比村と旧永平寺町、旧松岡町が合併し永平寺町、勝山市、鯖江市、池田町)を中心に、岐阜県郡上市石徹白地区(旧白鳥町)を含め2県の8市4町にまたがっている。

九頭竜川の流域では、古代から人々の生活の跡が、いろいろな地区で見られる。流域での生活の様子は、九頭竜川本川、日野川、足羽川の三大河川がもたらす恵み多い自然の中で、大和や京都の影響を受けながら風土に根ざした文化を育み、歴史を刻んできた姿を数多い遺跡や古墳、文化財などから窺い知ることができる。

現在は、福井平野を中心に武生盆地や大野盆地などで市街地の拡大伸展が見られる。人口は、福井平野を中心とした西側の市町で増加傾向にあり、東側の山間部市町では減少傾向が見られる。西側市町の核は、商業・サービス業を中心とする福井市、工業や商業を中心とする鯖江市と越前市である。また、農業は福井平野を中心として展開されており、東側山間部市町村では若干の工業の展開が見られるものの、林業の不振もあって過疎化が進みつつある。

大野市域の約80%を占める森林がもたらす「水」は、名水百選「御清水」^{おしろうず}に代表されるように、大野市の大きな魅力となっている。清らかで豊かな水は、農業をはじめ素晴らしい食文化を育んできた他、地場産業の繊維工業の振興にも大きな役割を果たしてきた。一方、市街地は戦国時代からの町割りが色濃く残り、城下町の風情を味わうことができる歴史と文化に満ちた空間となっている。今日まで脈々と受け継がれてきた幕末の大野藩に代表される進取の精神や、シンボルの亀山、越前大野城、寺町等は市民の誇りである。

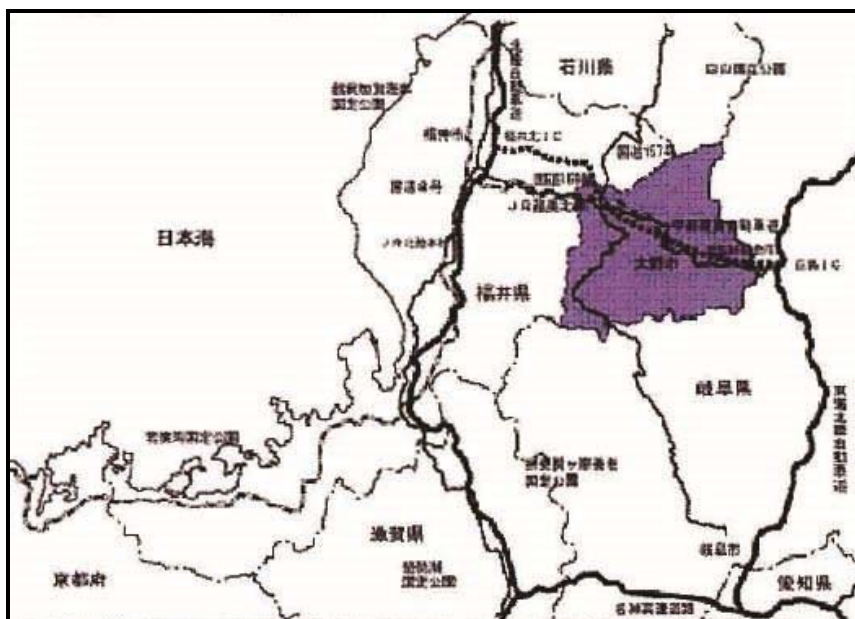


図 7.2-1 水源地域の太野市概略位置図

(2) ダムの立地条件

九頭竜ダムの水源地域は福井県大野市に位置している。平成 17 年 11 月 7 日に大野市と和泉村が合併し、新「大野市」が誕生した。同市の人口は 33,109 人（平成 27 年国勢調査）、面積は 872.43km²と福井県最大であり、その約 86.9%を森林が占めている。

【出典：大野市勢要覧 ver. 2014】

大野市は、福井県の東端に位置し、北東は石川県、東と南は岐阜県、西は福井市と池田町、北は勝山市と接している(図 7.2-1 参照)。

県都福井市から九頭竜ダムまでの距離は約 60km で、JR 越美北線や国道 158 号線を利用し約 1 時間 40 分の距離にある。また大野市の市街地、岐阜県郡上市からも車で約 50 分の距離にあり、東海北陸自動車道等を利用すれば中京圏からも日帰り圏の距離にある。

水源地域を東西に通る国道 158 号は、福井県福井市から岐阜県高山市を經由して長野県松本市を結ぶ北陸、中部経済圏の産業、文化の交流を図る幹線道路で、地域の振興に欠かすことのできない道路である。

鉄道は、JR 越美北線(九頭竜線)が国道 158 号にほぼ平行して走り、福井駅で JR 北陸本線と接続している。

また、現在建設中の中部縦貫自動車道(一部開通)は水源地域を東西に通過する計画となっており、完成すれば東海北陸自動車道で中京圏と、北陸自動車道で関西圏との時間距離が短縮される。福井県の東玄関口となる奥越前にとって地域活性化の強力な起爆剤になると期待されている。

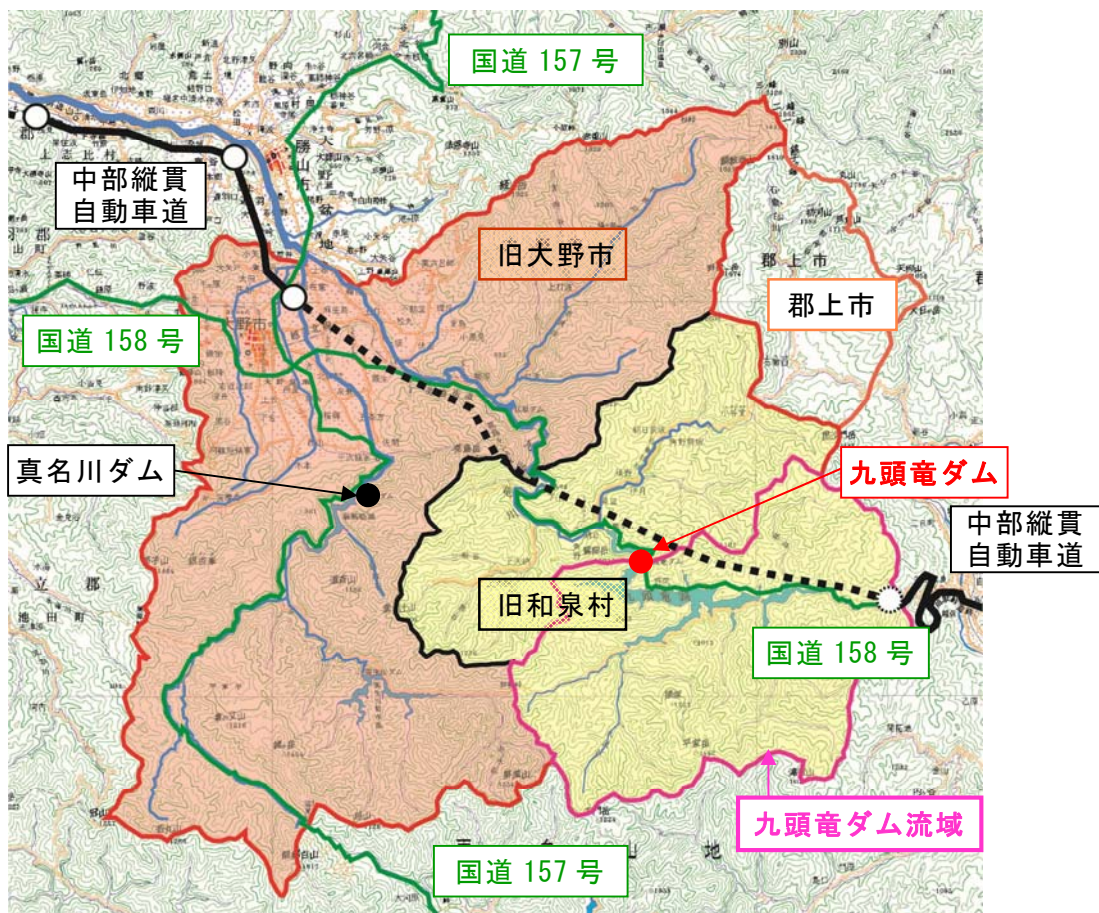


図 7.2-2 九頭竜ダム周辺の概略道路図

注) 現在の大野市は、旧大野市と旧和泉村が合併している。



図 7.2-3 中部縦貫自動車道(大野市周辺)の概要

【出典：福井河川国道事務所 中部縦貫自動車道のパンフレットより 平成 29 年 10 月】

交通アクセス(大野まで)

●東京から

- JR/東海道新幹線・北陸特急
/北陸新幹線・特急サンダーバード
- 飛行機/羽田(成田)～小松～福井(バス)
- 自動車/東名・名神・北陸自動車道
- 高速バス/東京駅八重洲南口～福井

福井まで

- 約 3 時間 30 分
- 約 3 時間 20 分
- 約 2 時間
- 約 5 時間 30 分
- 約 8 時間 20 分

大野まで

●大阪から

- JR/特急サンダーバードで
- 自動車/名神・北陸自動車道
- 高速バス/阪急三番街～福井

- 約 2 時間
- 約 2 時間 40 分
- 約 3 時間 30 分

●名古屋から

- JR/北陸線特急で
- /東海道新幹線・北陸特急
- 自動車/名神・北陸自動車道
- /東海北陸自動車道
- 高速バス/名鉄バスセンター～福井

- 約 2 時間
- 約 1 時間 40 分
- 約 2 時間
- 約 2 時間 50 分
- 約 2 時間 50 分

・JR 越美北線で
約 1 時間
・京福バス大野線で
約 1 時間

【出典：ふくい city ナビ】

<http://www.fukuicity-navi.com/index.php>

(3) 自然公園等

九頭竜ダム近傍の自然公園等の指定状況を下図に示す。

九頭竜ダム近傍は、県立奥越高原自然公園に指定されている。

奥越高原県立自然公園は、勝山市、大野市の2市にまたがり、白山山系の赤兎山、大長山、取立山、法恩寺山、大舟山などの1,500m前後の山々と「日本百名山」である荒島岳などを中心とする山岳公園である。

これらの山々を切り開くように入り込む九頭竜川とその支流の石徹白川、真名川などの溪谷・峡谷美、九頭竜湖や麻那姫湖などのダム湖とが調和のとれた自然環境を呈している。

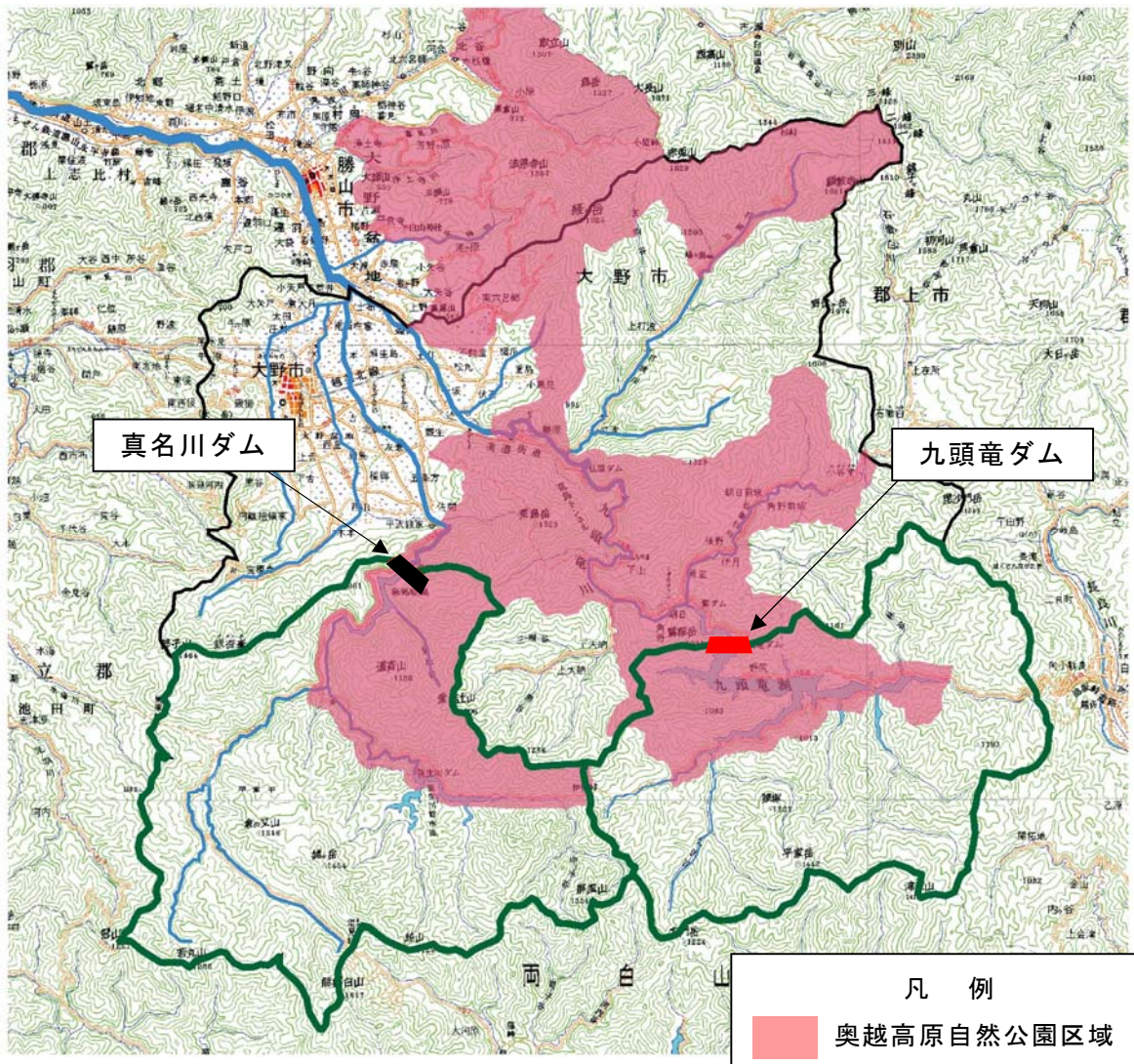


図 7.2-4 九頭竜ダム周辺の自然公園

【出典：福井県 HP】

7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

(1) 水源地域の人口・世帯数の推移

九頭竜ダムの水源地域である大野市和泉地区(旧和泉村)における人口及び世帯数は、昭和40年～昭和45年にかけてダム建設に伴う移転のため大きく減少した。移転世帯の移転先は約80%が岐阜県や愛知県であり、福井県内は約12%、うち大野市は約8%に過ぎなかった。

その後、産業の衰退(昭和62(1987)年の中竜鉱山閉鎖や林業の不振等)等に伴い、減少率の鈍化はあるものの人口は減少している。

表 7.3-1 大野市和泉地区(旧和泉村)の人口・世帯数の推移

旧和泉村	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
人口(人)	5,723	2,453	1,879	1,478	1,192	846	824	752	669	541	471
5年間の増減率	—	-57.1%	-23.4%	-21.3%	-19.4%	-29.0%	-2.6%	-8.7%	-11.0%	-19.1%	-12.9%
世帯数(世帯)	1,147	690	569	540	440	295	295	284	253	226	217

【出典：国勢調査 昭和40年～平成27年】

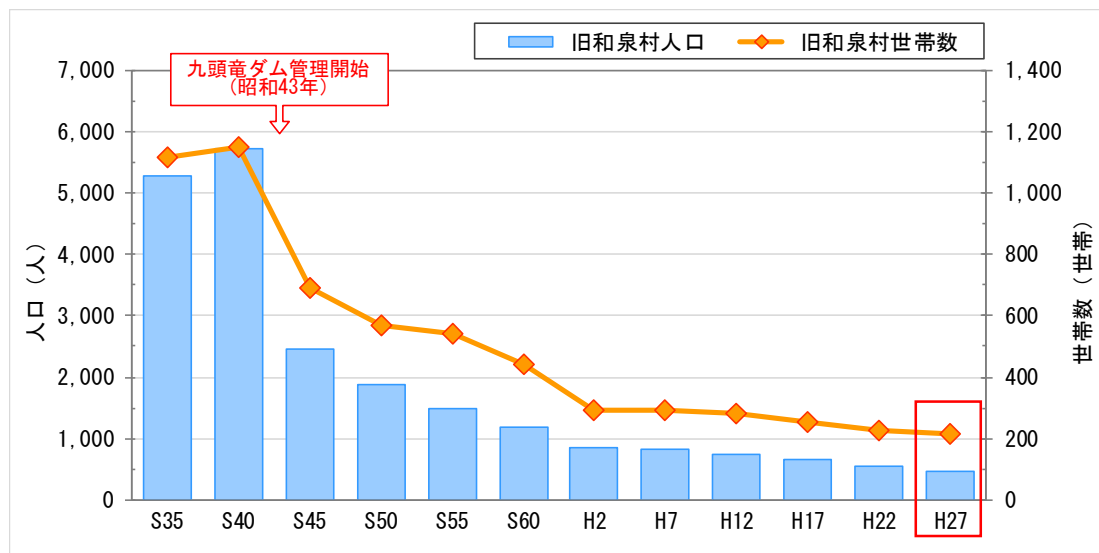


図 7.3-1 大野市和泉地区(旧和泉村)の人口・世帯数 経年変化

【出典：国勢調査 昭和40年～平成27年】

(2) 産業別就業者人口

大野市和泉地区(旧和泉村)における事業所数の経年変化を図 7.3-2、産業別就業者数の経年変化を図 7.3-3 に示す。

大野市和泉地区(旧和泉村)においては、事業所数、就業者数ともに減少している。

産業別就業者比率は、昭和 35(1960)～40(1965)年ではダム建設工事に伴う第二次産業就業者数比率が増加したが、昭和 40(1965)～45(1970)年にかけて、ダム建設に伴う移転やダム建設事業が終わったため大きく減少した。

その後も、第一次、第二次産業の衰退(昭和 62(1987)年の中竜鉱山閉鎖や林業の不振、高齢化に伴う農業就業者数の減少)等に伴い、減少率の鈍化はあるものの第一次産業、第二次産業の就業者数が減少し、第三次産業の就業者人口割合が増加している。

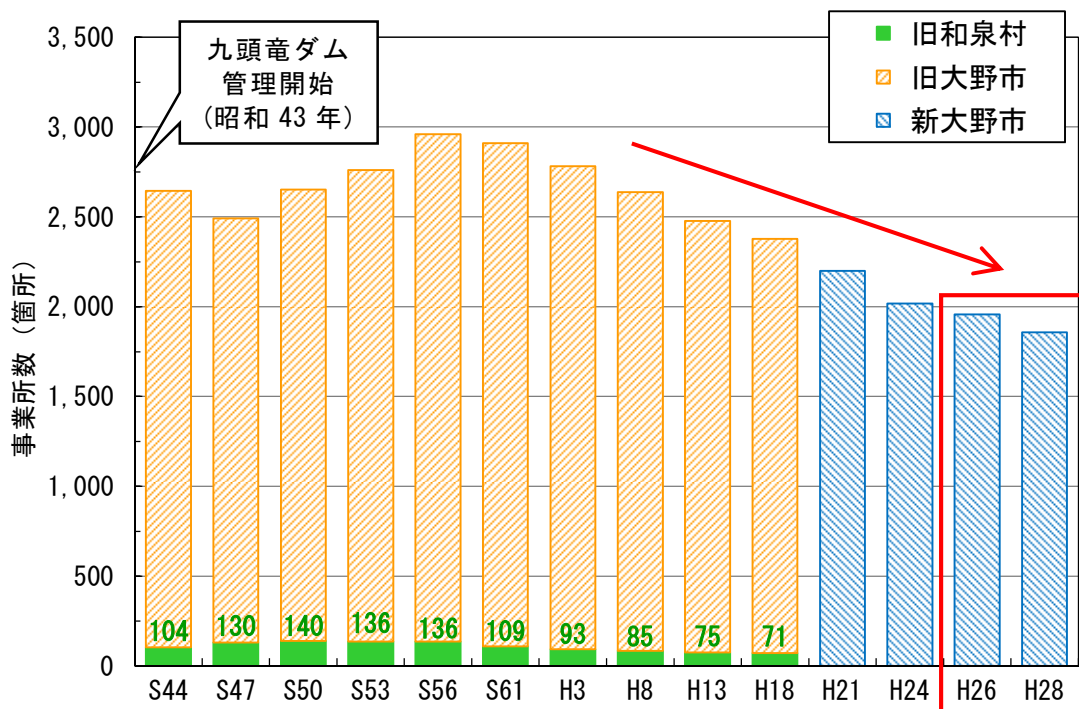


図 7.3-2 大野市(旧大野市・旧和泉村)の事業所数 経年変化

【出典：総務省・経済産業省「経済センサス(基礎調査結果・活動調査)」 昭和 44 年～平成 28 年】

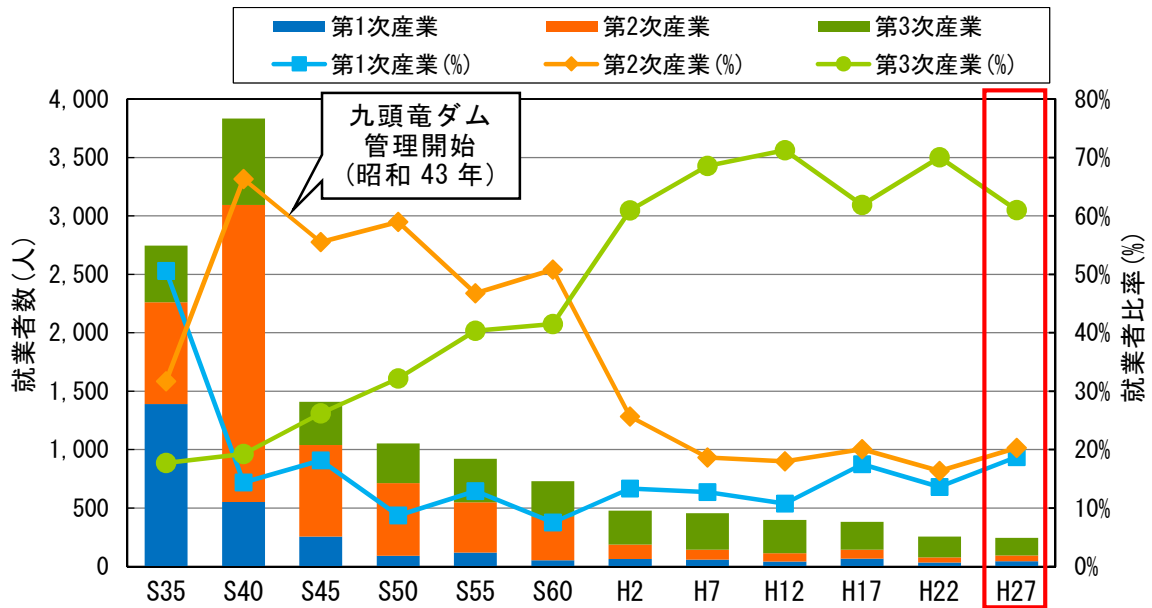


図 7.3-3 旧和泉村の就業者数及び就業者比率 経年変化

【出典：福井県累年統計表】

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/toukei-jouhou/ruinen.html>

(3) 観光イベント等の開催

水源地域の長野市和泉地区(旧和泉村)では、次のような観光イベントが開催されている。

表 7.3-2 大野市和泉地区(旧和泉村)における開催イベント

	イベント名	会場	内容
5月	荒島山開き(芽吹祭)	蕨生駐車場	安全祈願祭、記念登山
	九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	新緑ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、流木チェーンソーアート、木工教室等
7月	森と湖に親しむ旬間	九頭竜ダム他	九頭竜ダム・長野地下発電所見学会、パネル展示、流木工作教室、流木の配布
10月	九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、流木作品展示、くらしの情報コーナー、トロッコ列車乗車体験、化石発掘体験等

◆荒島山開き(芽吹祭)(5月)

荒島岳山開き(芽吹祭)は5月上旬の日曜日に開催される。

荒島岳は、奥越高原県立自然公園のほぼ中央にそびえ、その秀麗な山容から「大野富士」とも呼ばれる奥越の名峰で、福井県内では唯一の「日本百名山」に選ばれている。



【写真出典：(一社)大野市観光協会】

◆九頭竜新緑まつり(5月)

郷土芸能ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、流木チェーンソーアート、木工教室等が開催されている。新緑市場では、山菜や旬の素材を活かしたてんぷらなど春の味覚や、特産品やそばが楽しめる。



◆森と湖に親しむ旬間(7月)

森と湖に親しみ心身をリフレッシュしながら、森林やダム湖の重要性について理解を深めていただくためことを目的としている。九頭竜ダム・長野地下発電所見学会、パネル展示、流木工作教室、流木の配布等が開催されている。



◆九頭竜紅葉まつり(10月)

紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、流木作品展示、くらしの情報コーナー、トロッコ列車乗車体験、化石発掘体験等が開催されている。中竜鉦山の坑内で実際に使用されていたトロッコ列車の乗車体験や、特産の穴馬かぶら、まいたけなどの即売会等が行われる。



【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

九頭竜ダムは、大野市和泉地区(旧和泉村)に立地するダムで、周辺は福井県内でも有数の林業地帯でもある。都市域との広域的な交流は比較的利便性が良く、大野市街との連携・ネットワークにより、その活用が大いに見込める条件にある。

(1) 九頭竜ダム水源地域ビジョン(平成17年3月策定、平成18年2月に真名川ダム水源地域ビジョンと統合)

「九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、九頭竜ダム・九頭竜湖及びそれを取り巻く豊かな自然を保全し、活かしながら進める流域圏活性化のためのビジョンであり、平成17年3月に策定され、平成18年2月真名川ダム水源地域ビジョンと統合された。

九頭竜ダム水源地域ビジョンの基本方針を図7.4-1に、施策の実施イメージを図7.4-2に示す。

【九頭竜ダム水源地域ビジョン 基本方針】

—水辺の活用—

- 九頭竜湖と湖に流れ込む支川、石徹白川、大納川など、大野市和泉地域を流れる美しい清流とその水辺空間を保全し、水にふれあえる場としての利用を図ります。
- 大野市和泉地域を象徴する広大なダム湖である九頭竜湖をカヌー体験やフィッシング体験などの場として活用します。
- 石徹白川、大納川、九頭竜川の親水エリア、九頭竜湖周の水辺の一体的な魅力を向上し、水辺スポットへの誘導を図ります。

—森林資源の保全と活用—

- 流域の森林は、九頭竜川の水を育む水源林として重要な役割を果たしていますが、近年の過疎・高齢化の進行や林業経営をとりまく社会状況の変化により山林の荒廃が懸念されており、その適正な状態の保全を図ります。
- 森林の恵みを体感し、森からもたらされる森林資源を活用した体験型活動拠点づくりを進めます。

—ふれあいと交流—

- 山村の歴史を受け継いできた人々の心、大野市を愛し、自然・文化を楽しむ心がふれあい機会をさらに広げていきます。
- 大野市和泉地域の自然・文化に魅了されている地域外の和泉ファンと地域住民とのイベントにおける交流や情報の交流をさらに進めます。

図 7.4-1 九頭竜ダム水源地域ビジョンの基本方針

【出典：九頭竜ダム水源地域ビジョン 平成17年3月】

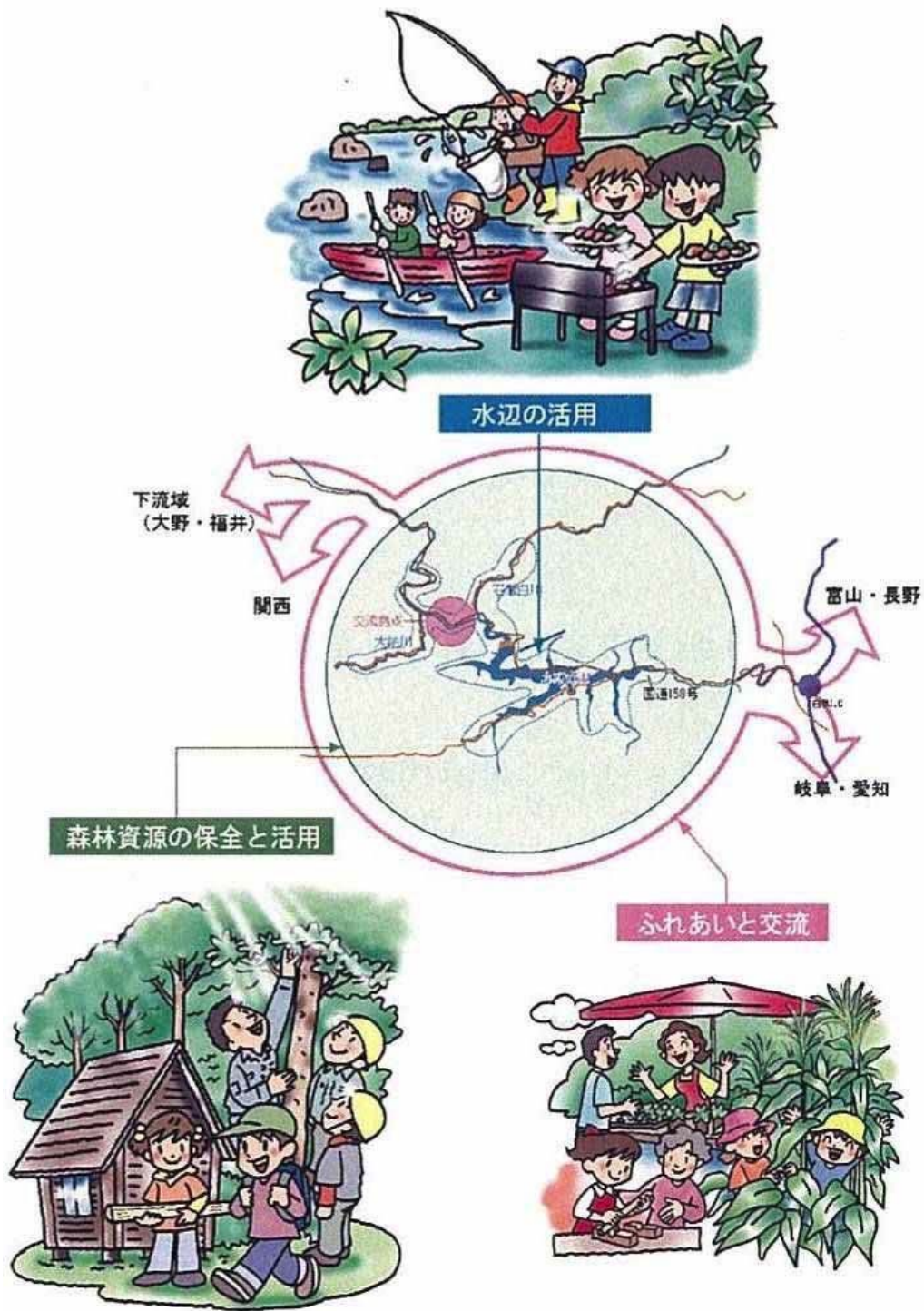


図 7.4-2 九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策の実施イメージ

【出典：九頭竜ダム水源地域ビジョン 平成 17 年 3 月】

(2) 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの推進

平成 17 年 11 月の旧大野市と旧和泉村の合併に伴い、真名川ダム・九頭竜ダムの水源地域ビジョンを一体的に推進するため、平成 18 年 2 月に「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」が設立された。

「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン」は、ダム水源地域の自治体・住民等がダム事業者・管理者と共同で策定主体となり、下流の自治体・住民や関係行政機関に参加を呼びかけながら策定する、水源地域活性化のための行動計画である。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンでは、「森林」、「水」、「交流」の 3 つの柱のもとに水源林の保全や活用、健全な水環境の形成、多様な水辺の活用、活発な地域間の交流など様々な施策を実行することにより、水源地域の持続的な発展を目指す。

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンの活動イメージ、施策概要図を以下に示す。

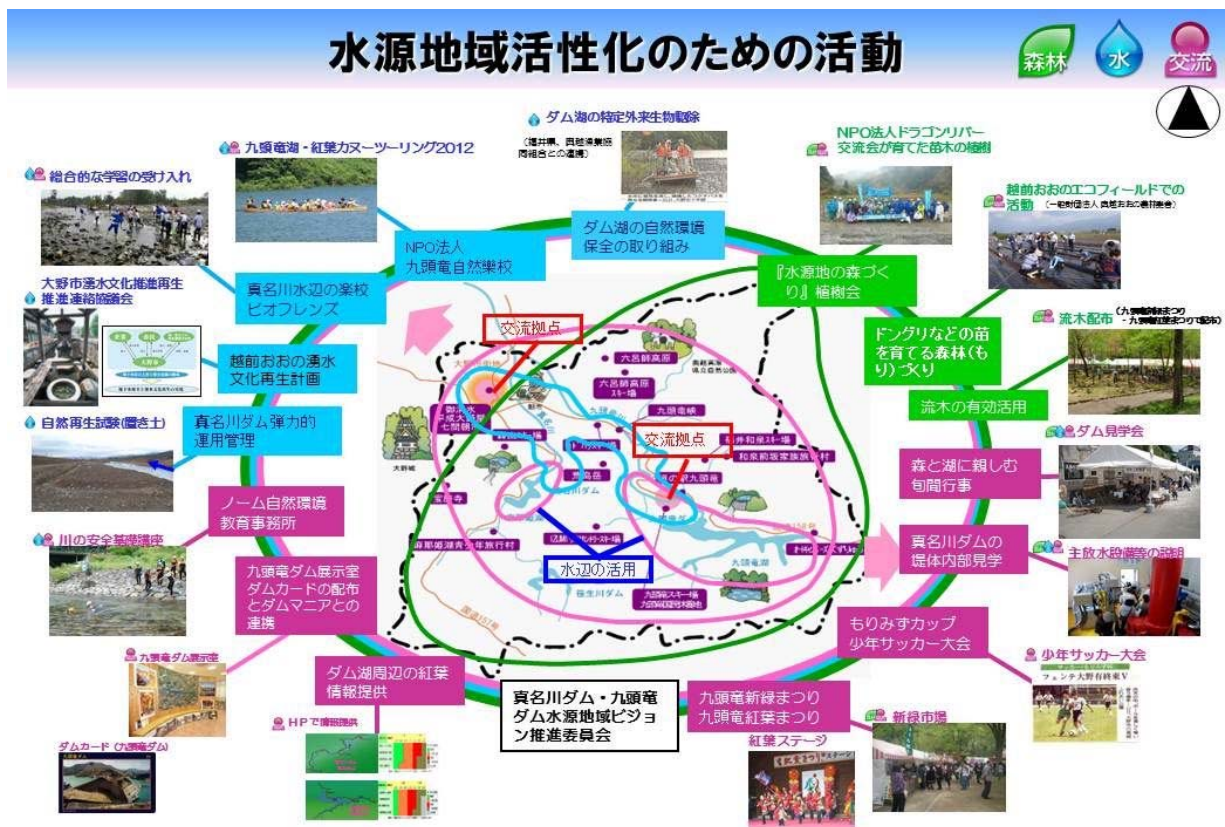


図 7.4-3 真名川ダム・九頭竜川ダム水源地域ビジョンの活動イメージ

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン

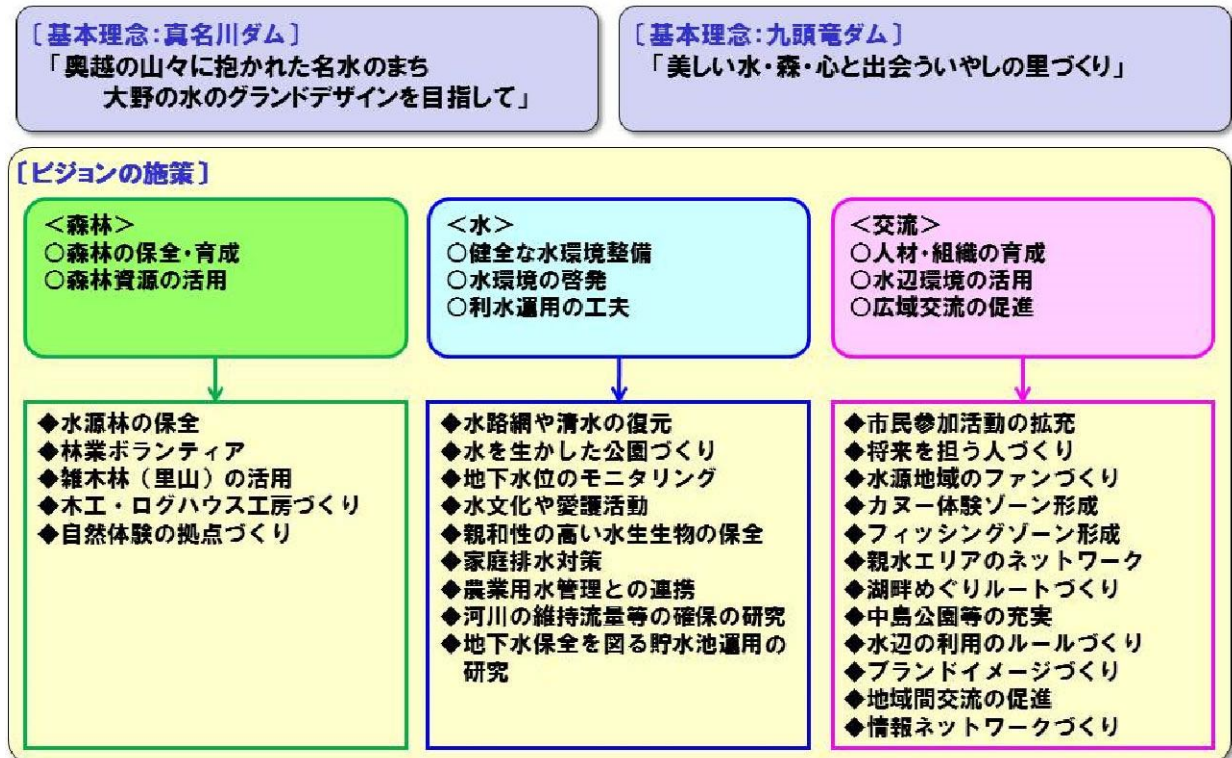


図 7.4-4 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン 施策概要図

【出典：平成 29 年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 平成 30 年 3 月】

7.4.2 地域とダムとの関わり

九頭竜ダムでは、地元地域の市町村との関わりとしてダム見学会開催などの様々な活動を実施している。平成25(2013)～29(2017)年の活動を表7.4-1に示す。

九頭竜新緑まつり、森と湖に親しむ旬間行事、九頭竜紅葉まつり、ダム周辺の紅葉情報の提供、ダムカードの配布、九頭竜ダム展示室の公開は、毎年恒例となっている。

表 7.4-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成25年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成25年5月18、19日	第27回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など	約27,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成25年7月6日	越前おおのエコフィールド どんぐりの森づくりイベント	平家平の私有林	・下草刈り ・植樹作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成25年7月6、7日	第6回もりみずカップ 少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」のシンボルフラッグが昨年度から本大会の優勝旗となっており、優勝チームに贈呈された。	延べ12チーム	もりみずカップ実行委員会、フエンテ大野フットボールクラブ
平成25年7月27日	森と湖に親しむ旬間行事	浄土寺川ダム(勝山市)、 笹生川ダム(大野市)	・ダム見学(操作室等) ・ダムの構造等の説明	31人	
平成25年7月28日	森と湖に親しむ旬間行事 「九頭竜ダム・長野発電所見学会」	九頭竜ダム 長野発電所	九頭竜ダム ・冬季連絡道などの見学 ・水上巡視体験 ・防災機器の展示、災害情報提供の実演 ・流木のプレゼントと流木工作教室の開催 ・ダムマニアとの連携 ・パネル展示 長野発電所 ・地下発電所の見学 ・模型実験の実演	九頭竜ダム会場 約450人 長野発電所 約400人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
平成25年8月2日	ダムツーリズム (九頭竜ダム・夏休みダム見学会ツアー)	前坂キャンプ場、九頭竜ダム、 下半原地区	・ツアー行程 前坂キャンプ場(化石発掘体験)→九頭竜ダム見学会→九頭竜自然楽校(カヌークルーズ)	計82人	前坂キャンプ場、九頭竜川ダム統合管理事務所、NPO法人九頭竜自然楽校
平成25年8月29日	第4回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	-	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成25年10月14日	越前おおのエコフィールド どんぐりの森づくりイベント	越前おおのエコフィールド 秋生地区	・どんぐり拾い ・どんぐりの種まき ・どんぐりの越冬作業	約220人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成25年10月17日～ 11月27日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	-	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成25年10月26、27日	第34回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など ・流木の無料配布 ・越前美濃街道広域観光交流推進協議会PR	約38,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成26年2月12日	第5回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	-	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	4,089枚 (累計13,852枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム環境マップの配布	九頭竜ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	-	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム 管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示	27,532人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成25年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成26年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成26年5月17、18日	第28回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験、カヌー操舵体験など	約48,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成26年7月6日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	平家平の私有林	・下草刈り ・補植作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成26年6月28、29日	第7回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ12チーム	もりみずカップ実行委員会、フェンテ大野フットボールクラブ
平成26年7月27日	森と湖に親しむ旬間行事「九頭竜ダム・長野発電所見学会」	九頭竜ダム 長野発電所	九頭竜ダム ・冬季連絡道などの見学 ・水上巡視体験 ・災害対策車の展示、照明車の操作体験 ・流木のプレゼントと流木工作教室の開催 ・ダムマニアとの連携 ・パネル展示 長野発電所 ・地下発電所の見学	九頭竜ダム会場 約320人 長野発電所 約190人	
平成26年7月-8月	ダムツーリズム(九頭竜ダム・夏休みダム見学会ツアー)	前坂キャンプ場、九頭竜ダム、下半原地区	【申込者数不足のため未実施】 大野市和泉地区を巡る民間バスツアーのルートに九頭竜ダムの見学が組み込まれた。 ・親子でドラゴンカヌー&化石発掘体験 ・九頭竜ダム見学 ・サマーキャンプ等	—	NPO法人九頭竜自然楽校
平成26年9月5日	第6回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成26年7月20日 ～8月31日(夏休み) 4月26日～11月30日の 土・日・祝	【新規】化石発掘体験	J R 九頭竜湖駅裏	交流人口の増加と地域活性化を目的、九頭竜川上流域の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用し、発掘体験を開催。	約2,381人	大野市 九頭竜化石研究会
平成26年10月8日～ 11月28日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	真名川ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成26年10月25、26日	第35回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、遊びの広場、くらしの情報コーナー、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験など ・流木の無料配布 ・越前美濃街道広域観光交流推進協議会PR	約66,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成26年11月3日	【新規】日帰り留学(第2回)	九頭竜ダム湖周辺	【天候不良により未実施】 下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・源流見学、カヌー体験、植樹体験、流木工作教室、青空教室等を予定	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成27年2月27日	第7回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担い、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき、平成25年度に取り組んだ各施策の推進状況の報告及び協議。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年2月28日～ 3月15日(前半) 平成27年3月16日～ 3月24日(後半)	パネル展	大野市役所(1階市民ホール)	大野市と九頭竜川ダム統合管理事務所との協働によるパネル展。前半は、東日本大震災から4年国土交通省の取り組みと題し、後半は、伊勢湾台風(昭和34年9月)、奥越豪雨(昭和40年9月)の被災状況等について開催。	—	大野市 九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	4,673枚 (累計18,525枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム環境マップの配布	九頭竜ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム 管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	23,384人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成26年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成27年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成27年5月16、17日	第29回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、ウォーターガンシミュ、スラックライン、化石発掘体験、フリーマーケットなど ・流水の無料配布と流水工作教室	約24,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成27年7月5日	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平の私有林	・下草刈り ・補植作業	約30人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成27年6月20、21日	第8回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	(延べ16チーム)	もりみずカップ実行委員会、フエント大野フットボールクラブ
平成27年7月26日	森と湖に親しむ旬間行事「九頭竜ダム・長野地下発電所見学会」	九頭竜ダム 長野発電所	九頭竜ダム ・冬季連絡道などの見学 ・水上巡視体験 ・建設機械展示・記念撮影会 ・流水のプレゼントと流水工作教室の開催 ・パネル展示 ・ダムマニアとの連携 長野発電所 ・地下発電所の見学 ・模型実験の実演	九頭竜ダム会場 約360人 長野発電所 約200人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
平成27年7月10日～9月11日の間に計12回	カヌーを使った水辺の安全教室	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センタープール、市内小学校	B&G財団のカヌーなどの無償貸与制度を活用して、市内の小学生を対象に、プールやダム湖でカヌーを使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座を行った。	延べ187人	大野市教育委員会
平成27年10月8日	第8回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年5月2日～11月1日のうち土・日・祝日、GW・夏休み・SW期間の毎日	化石発掘体験	九頭竜国民休養地内	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用し、発掘体験を開催。	延べ3,734人	大野市、NPO法人九頭竜化石研究会
平成27年10月5日～11月16日	ダム周辺の紅葉情報をホームページで提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成27年10月12日	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	平家平の私有林、秋生地区	・ドングリ拾い ・種植え ・植樹	約150人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成27年10月24、25日	第36回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、ふるまい大鍋、トロコ列車乗車体験、つり堀、木工工作コーナーなど ・流水の無料配布と流水工作教室	約65,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成27年11月7日	日帰り留学(第2回)	九頭竜川下流域(九頭竜川流域防災センター、九頭竜河口付近)	上下流域の子ども達(親子)に短期留学をしてもらい、山林・里山・田園地域での自然体験等を通して上下流域間の交流と連携の強化、防災意識の向上を図る。福井豪雨から10年となる平成26年より実施。 ・川についての学習、施設見学、遊覧船による見学など	約10名	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成28年2月15日	第9回大野市湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後生へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。 なお、第9回の協議会では、水循環基本法・水循環基本計画に基づき、流域における様々な主体が連携して施策に取り組むため、本協議会を「大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会」と改め、水循環の保全に関し、さらに取り組むことを決定した。	—	大野市湧水文化再生推進連絡協議会
平成27年10月23日～10月28日	パネル展	ショッピングモールヴィオ(大野市銀座)	真名川ダム建設の契機となった昭和40年9月の奥越豪雨から今年で50年の節目にあたることから、真名川ダム・九頭竜ダムの概要(防災の役割)の紹介をはじめ、奥越豪雨当時の大野市内の甚大な被害状況並びに、平成23年3月11日に発生した東日本大震災及び、今年9月に発生した関東・東北豪雨による被害と国土交通省の対応状況についての紹介など。	—	大野市 九頭竜川ダム統合管理事務所
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	6,837枚 (累計25,362枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム環境マップの配布	九頭竜ダムほか	ダム湖周辺の自然環境を楽しんでもらうために、現在生息している魚、昆虫、鳥、動物、植物などの自然環境をわかりやすく紹介したポケットサイズのマップ。全12ページで構成。ダム見学に来られた方及び森と湖に親しむ旬間行事ダム見学会、九頭竜新緑まつり・紅葉まつりで配布。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	29,362人	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成27年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成28年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成28年5月14、15日	第30回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、カヌー体験教室、饅頭まき、化石発掘体験、ふるまい大鍋、流木の無料配布など ・パネル展示	約26,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成28年6月18、19日	第9回もりみずカップ少年サッカー大会	奥越ふれあい公園陸上競技場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ16チーム	もりみずカップ実行委員会、フエンテ大野フットボールクラブ
平成28年7月7日～7月27日の間に計13回	カヌーを使った水辺の安全教室	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センタープール、市内小学校	B&G財団のカヌーなどの無償貸与制度を活用して、市内の小学生を対象に、プールやダム湖でカヌーを使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座を行った。 ・着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、カヤックの操艇など	延べ217人	大野市教育委員会
平成28年7月30日	森と湖に親しむ旬間行事「九頭竜ダム・長野地下発電所見学会」	九頭竜ダム 長野発電所	九頭竜ダム ・ダム堤体上、冬季連絡通路の見学 ・記念撮影用パネル ・流木のプレゼントと流木工作教室の開催 ・パネル展示 ・お絵かきコーナー 長野発電所 ・地下発電所の見学 ・模型実験の鑑賞	九頭竜ダム会場 約700人 長野発電所 約530人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
平成28年10月11日～11月21日	ダム周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統合管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統合管理事務所
平成28年10月10日	越前おおのエコフィールド「ドングリの森づくりイベント」	どんぐり広場(大野市稲穂)	・記念植樹 ・どんぐりの越冬作業 ・苗の植え付け ・どんぐり拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成28年10月29、30日	第37回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、トロッコ列車乗車体験、つり堀、木工工作コーナー、流木の無料配布など ・パネル展示	約61,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成28年11月22日	第1回大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後世へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき各施策に取り組んだ。なお、昨年度の協議会において、名称を「大野市湧水文化再生推進連絡協議会」から「大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会」と改め、水循環の保全に関し、さらに取り組むことを決定している。	—	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会
平成28年10月25日～10月30日	防災パネル展	ショッピングモールヴィオ(大野市銀掛)	真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)から50年の節目となった平成27年より、大きな被害をもたらす台風や地震などへの防災・減災への意識向上を目的として実施。奥越豪雨による旧西谷村の災害などの貴重な過去の災害記録、国土交通省の近年の災害対応状況、ダムの役割などの紹介を行った。	—	大野市 九頭竜川ダム統合管理事務所
平成28年4月29日～11月30日のうち土・日・祝日、GW・夏休み期間の毎日	化石発掘体験	九頭竜国民休養地内	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用して、化石発掘体験を開催。	延べ3,440人	大野市、NPO法人九頭竜化石研究会
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	9,723枚 (累計35,358枚)	九頭竜川ダム統合管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	32,879人 (H28年度)	九頭竜川ダム統合管理事務所

【出典：平成28年度 九頭竜ダム年次報告書】

表 7.4-1 九頭竜ダムにおける地域との交流に係る活動(平成29年度)

開催期日	イベント名	開催場所	イベント内容	参加人数	主催者
平成29年5月20、21日	第31回九頭竜新緑まつり	九頭竜国民休養地	・新緑ステージ、新緑市場、リバーアクティビティ体験、ツルクライミング体験、トロッコ列車乗車体験、化石発掘体験、ふるまい大鍋、流木無料配布、木工体験、国体PR企画 など ・パネル展示	約25,500人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成29年6月17、18日	第10回もりみずカップ少年サッカー大会	大野市真名川憩いの島サッカー場	平成20年に開かれた「森と湖に親しむ旬間全国大会」のメモリアルイベントとして、九頭竜川水系のもたらす豊かな自然に親しみ、自然を愛する子どもたちの心身ともに健全な発育を図るため、九頭竜川流域の少年サッカーチームを招き、技術の向上のみならず、相互の親善を図るため開催。「森と湖に親しむ旬間全国大会」の大会旗を本大会の優勝旗にするという形で、豊かな自然を愛する心・感謝する心が受け継がれている。	延べ16チーム	もりみずカップ実行委員会、フエンテ大野フットボールクラブ
平成29年7月11日～7月28日の間に計15回	カヌーを使った水辺の安全教室	九頭竜湖(下半原)、B&G海洋センタープール、市内小学校	B&G財団のカヌーなどの無償貸与制度を活用して、市内の小学生を対象に、プールやダム湖でカヌーを使った水辺の安全教室や、カヌー出前講座を行った。 ・着衣泳、ライフジャケット浮遊体験、カヤックの機軸など	延べ249人	大野市教育委員会
(第2回)平成29年7月25日 (第3回)平成30年3月26日	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会	大野市役所	古くからある湧水の再生や大野市特有の湧水文化を後世へ引き継ぐことを目的とし、国・県・市などの関係機関や団体、市民や企業がそれぞれの役割を担いつつ、総合的な取り組みを進めるため、平成23年度に「越前おおの湧水文化再生計画」を策定。計画に基づき各施策に取り組んだ。協議会では、各施策の推進状況の報告や協議などを行い、関係機関や団体の連携強化を図る。現在、「越前おおの湧水文化再生計画」の改訂作業を行っている。	—	大野市水循環・湧水文化再生推進連絡協議会
平成29年7月30日	森と湖に親しむ旬間行事「九頭竜ダム・長野地下発電所見学会」	九頭竜ダム 長野発電所	九頭竜ダム ・ダム埋体上、冬季連絡通路の見学 ・記念撮影用パネル ・流木のプレゼントと流木工作教室の開催 ・パネル展示 ・水上巡視体験 長野発電所 ・地下発電所の見学 ・模型実験の披露	九頭竜ダム会場 約500人 長野発電所 約310人	森と湖に親しむ旬間行事運営連絡会
(第1回)平成29年8月7日 (第2回)9月15日 (第3回)10月11日 (第4回)12月6日	水源地域ビジョン意見交換会	大野商工会議所等	これまで、真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョンは個々の活動に留まり、水源地域全体では年一度の推進委員会での活動報告を行うのみであった。平成30年に九頭竜ダムが管理開始50年を迎えることを契機に、「実際にできること」をみなさんと話し合い、できることから実施していくことで、今まで以上に水源地域の活性化を推進していくことを目的に意見交換会を実施した。	17人	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成29年10月9日	越前おおのエコフィールド「どんぐりの森づくりイベント」	平家平、秋生、越前おおのエコフィールド	・どんぐりの苗木越冬作業 ・どんぐり拾い	約120人	越前おおのエコフィールド管理・運営協議会
平成29年10月13日～12月1日	ダム周辺の紅葉情報提供	九頭竜ダム湖周辺	ダム湖周辺の紅葉の状況を、ダム管理支所職員がダム湖等を巡視した際に写真を撮り、「紅葉情報」として毎週九頭竜川ダム統括管理事務所ホームページ及びツイッターに掲載し、ダム湖周辺への紅葉見物者を予定している観光客に情報提供。	—	九頭竜川ダム統括管理事務所
平成29年10月28、29日	第38回九頭竜紅葉まつり	九頭竜国民休養地	・紅葉ステージ、紅葉市場、化石発掘体験、トロッコ列車乗車体験、木工工作コーナー、流木の無料配布、ふるまい大鍋 など ・パネル展示 ・ダムカード撮影会(九頭竜ダムが平成30年に管理開始50周年を迎えるため)	約36,000人	大野市、九頭竜まつり実行委員会
平成30年1月12日～1月17日	防災パネル展	福井駅東口側商業施設アオッサ1階アトリウム(福井市)	大きな被害をもたらす台風や地震などへの防災・減災への意識向上を目的として実施。真名川ダム建設の契機となった奥越豪雨(昭和40年9月)による旧西谷村の災害などの貴重な過去の災害記録、国土交通省の近年の災害対応状況、ダムの役割などの紹介を行った。	約500名	九頭竜川ダム統括管理事務所
仮設テント：平成29年4月29日～10月1日のうち土・日・祝日、GW・夏休み期間の毎日 HOROSSA!：平成29年10月28日～平成30年3月31日(休館日：月曜日・祝日の翌日)	化石発掘体験	大野市化石発掘体験センターHOROSSA!(九頭竜国民休養地内)	交流人口の増加と地域活性化を目的に、九頭竜川上流域に位置する和泉地区の地層から産出される恐竜やアンモナイト、貝類、植物などの化石を活用して、化石発掘体験を開催。4月29日から10月1日までは仮設テントにおいて実施し、10月28日からは鉄骨平屋建ての大野市化石発掘体験センターを新築し、オープンしている。	延べ3,295人	大野市、NPO法人九頭竜化石研究会
通年	ダムカードの配布	九頭竜ダム	ダム管理支所にて来訪者にダムカードを配布	9,429枚(累計44,787枚)	九頭竜川ダム統括管理事務所
	九頭竜ダム展示室	九頭竜ダム管理支所1F	九頭竜ダムの概要、洪水調節、発電、周辺の観光等のパネルを展示。	30,332人(H29年度)	九頭竜川ダム統括管理事務所

【出典：平成29年度 九頭竜ダム年次報告書】

7.5 ダム周辺の状況

7.5.1 ダム周辺整備の状況

九頭竜ダムの持つ広大な水と緑を活かして、よりすばらしい環境の創出を図るため、ダム周辺環境整備事業を実施した。各地区の整備状況を表 7.5-1 及び図 7.5-1 に示す。

その他、九頭竜川ダム統合管理所九頭竜ダム管理支所に展示室が整備されている。また、ダムサイトに位置している旧和泉村を中心に、国民休養地整備事業及び特定山村新興対策パイロット事業により、九頭竜国民休暇地が整備されている。

表 7.5-1 地区別整備状況

地区名	整備テーマ	整備施設
長野地区	PR 広場	駐車場、案内板
野尻地区	展望と活動広場	法面整備、休憩所
下半原地区	観桜広場	散策路、キャンプ場
上半原地区	遊水広場	オートキャンプ場

【出典：九頭竜川流域誌 平成 12 年 10 月】



長野地区

野尻地区



下半原地区

上半原地区

上半原地区

図 7.5-1 九頭竜ダム周辺環境整備事業における各地区の整備状況

【出典：九頭竜川流域誌 平成 12 年 10 月】

7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

大野市和泉地区(旧和泉村)における最近10年間の観光入込み客数を以下に示す。

最近10年間の観光入込み客数は、平成23年にやや落ち込んだものの、その後は増加傾向にあり平成28年の約75万人が最も多くなっている。

「九頭竜ダム周辺」の入込み客数は、概ね横ばいであるが平成23年に震災などの影響による減少がみられたものの、平成24年以降はやや増加傾向にあり平成28年には約33万人の方が訪れた。

九頭竜ダムの資料室入場者数も同様の傾向にあり、平成24年度までは減少傾向であったが、その後は増加傾向となり平成28年度には約3.2万人の入場者があった。

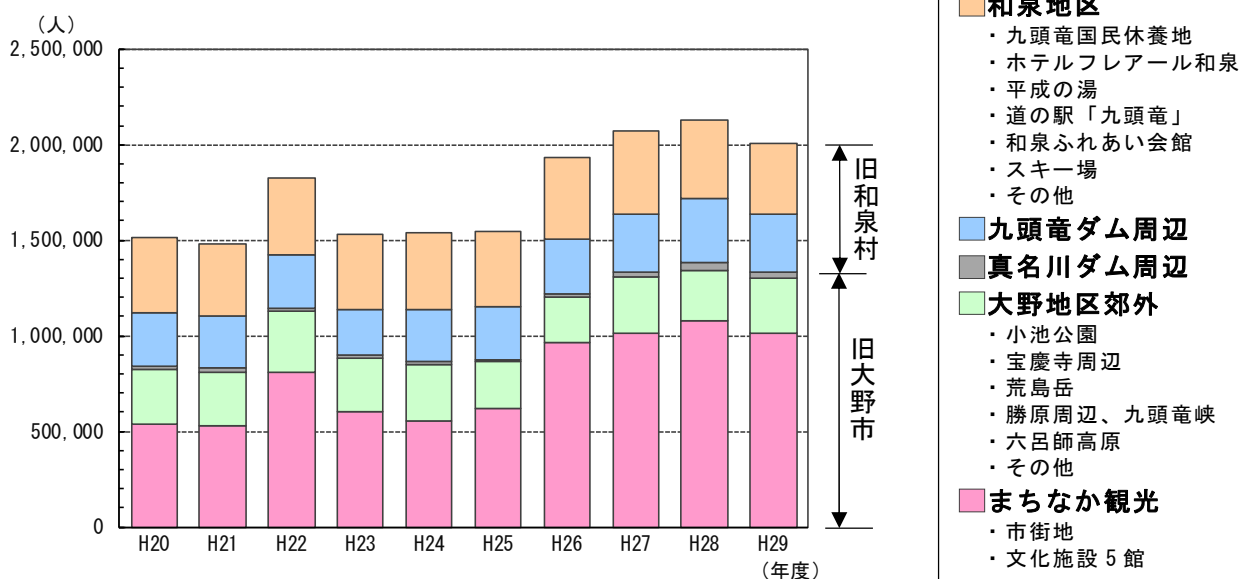
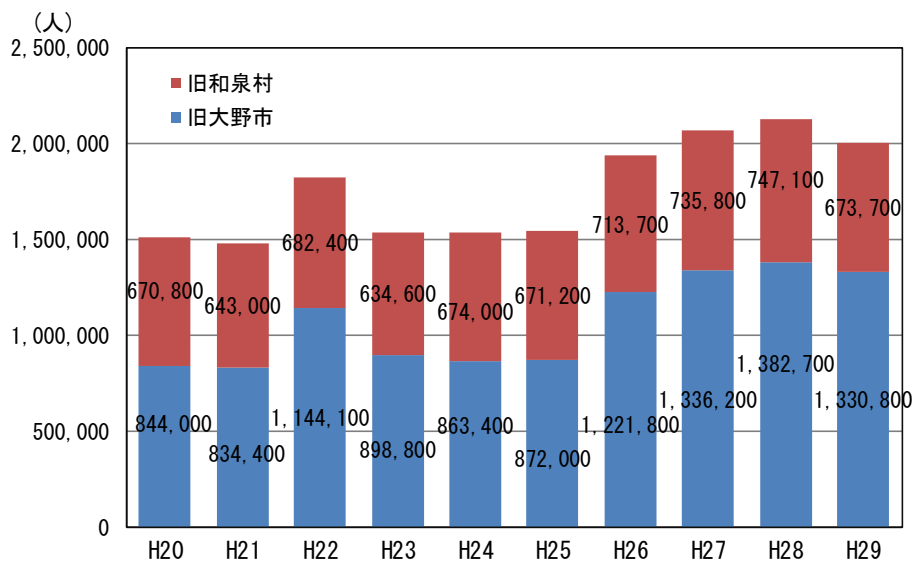


図 7.5-2 大野市における観光入込み客数の推移
(上図：旧和泉村と旧大野市の内訳、下図：詳細内訳)

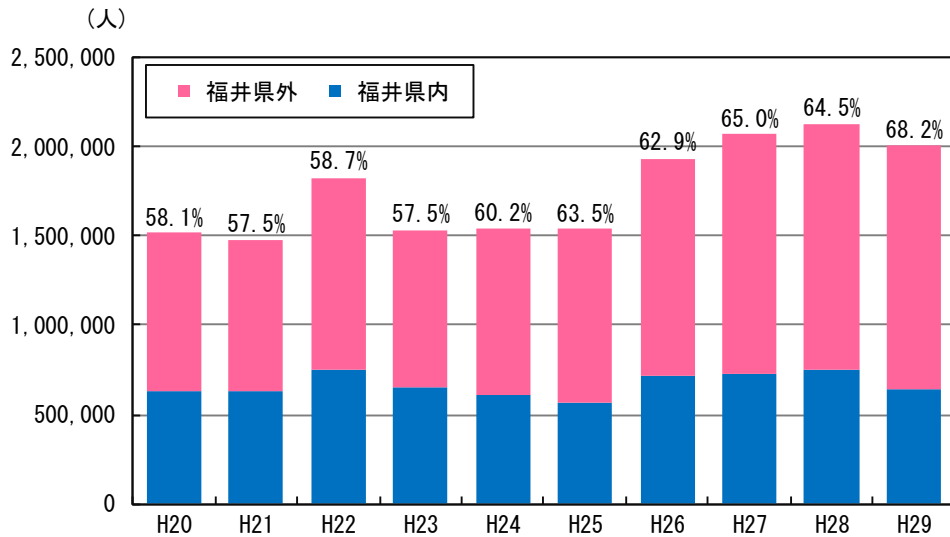


図 7.5-3 大野市の県内外別観光入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

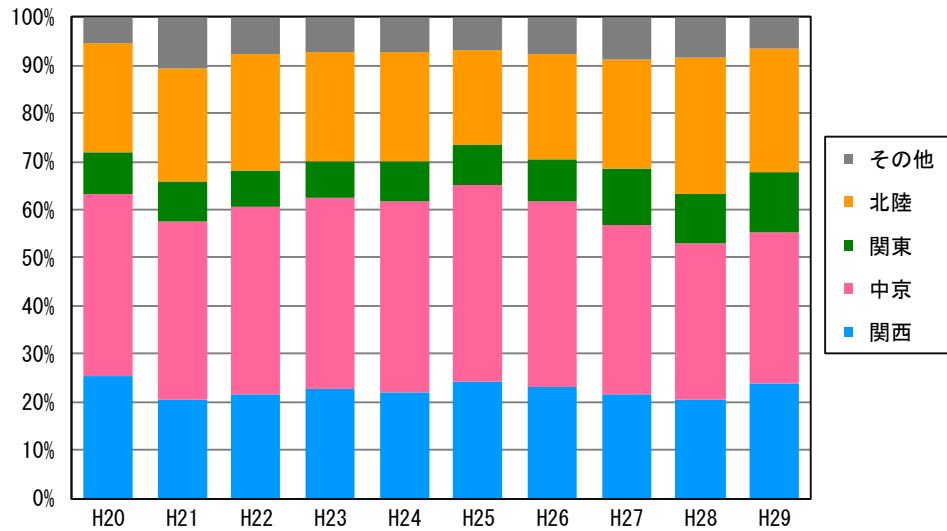


図 7.5-4 大野市の県外観光客の発地内訳の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

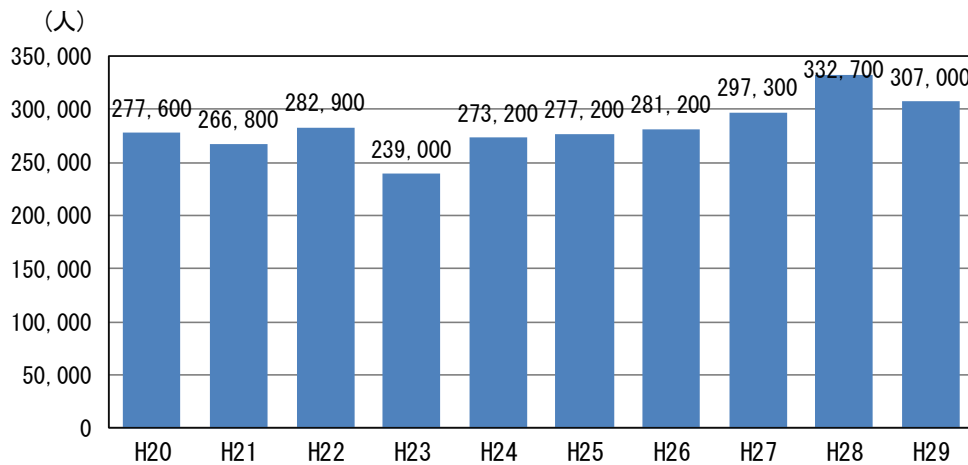


図 7.5-5 九頭竜ダム周辺の入込み客数の推移

【出典：大野市商工観光課資料】

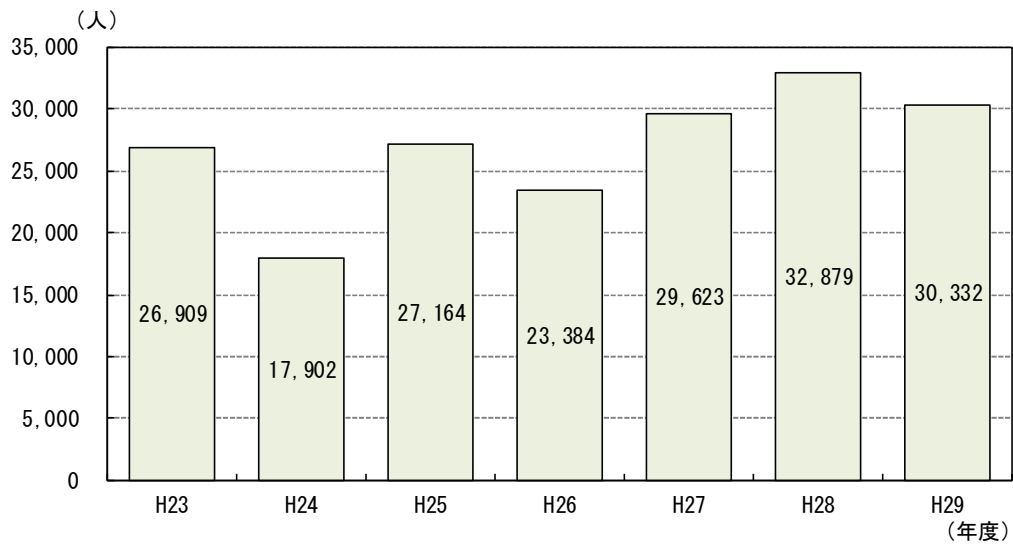


図 7.5-6 九頭竜ダムの資料室入場者数の推移

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.5.3 ダムおよびダム周辺のイベント等の開催状況

(1) 森と湖に親しむ旬間行事

九頭竜ダムでは、「森と湖に親しむ旬間」の行事の一環として、毎年九頭竜ダムと長野地下発電所の見学会を開催している。

この他、春季の「九頭竜新緑まつり」、秋季の「九頭竜紅葉まつり」など、多くの観光客が集まるイベントが開催されている。

図 7.5-7 森と湖に親しむ旬間行事(九頭竜ダムと長野地下発電所見学会)開催の新聞広告

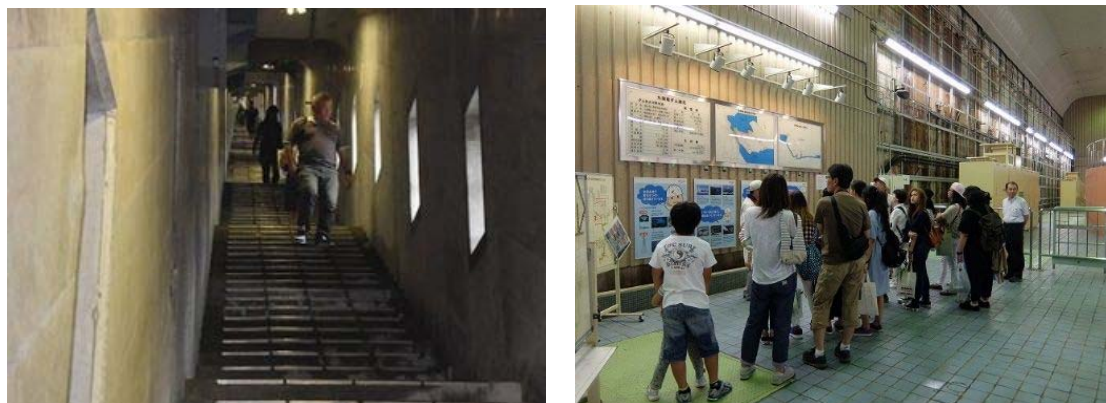


図 7.5-8 森と湖に親しむ旬間行事(冬期連絡通路見学・長野発電所見学)の様子



図 7.5-9 森と湖に親しむ旬間行事(流木を利用した工作教室・水上巡視体験)の様子

【出典：九頭竜川ダム統管理事務所資料】

(2) 九頭竜湖カヌー体験、ミズベリング

真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン策定から10年以上が経過し、各施策の進捗状況にも大きな差ができています。

そこで、平成29年度に、水源地域ビジョン推進委員会に参加している活動団体、関係機関に声掛けをして集まっていたいただき、それぞれが考えていることやアイデアなどを出し合い、取り組みの実現に向けた方策や役割分担を検討する「意見交換会」を実施しました。

この「意見交換会」でだされた意見のうち、九頭竜湖でのカヌー体験が、平成30(2018)年4月から九頭竜湖で開催されている。また、「ミズベリング in 和泉」が平成30年11月10日に開催され、地酒で乾杯した後、流木アートに挑戦や九頭竜ダム・長野発電所見学が行われた。



図 7.5-10 九頭竜湖でのカヌー体験のイメージ

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】



図 7.5-11 ミズベリングの様子

【出典：九頭竜川ダム統合管理事務所資料】

7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

ダム湖利用実態調査は、「河川水辺の国勢調査(ダム湖版)」(国土交通省河川局河川環境課)により、平成3年度から3年ごとに実施しており、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査（ブロック区分調査、利用者カウント調査、利用者アンケート調査、イベント調査、施設利用者数調査）を実施し、年間利用者数の推定を行うものである。

平成26年度の結果によれば、年間利用者数は約5万2千人と推計された。

利用形態状況の年間推計値によると「散策」、「野外活動」が大部分を占めており、過去の調査結果から見てもアウトドア的な利用が大半を占めている。なお、平成3年度の調査の来場目的の設問は、「スポーツ」、「釣り」、「ボート」、「散策」及び「その他」であったが、平成6年度の調査からは、設問に「野外活動」と「施設利用」を追加している。

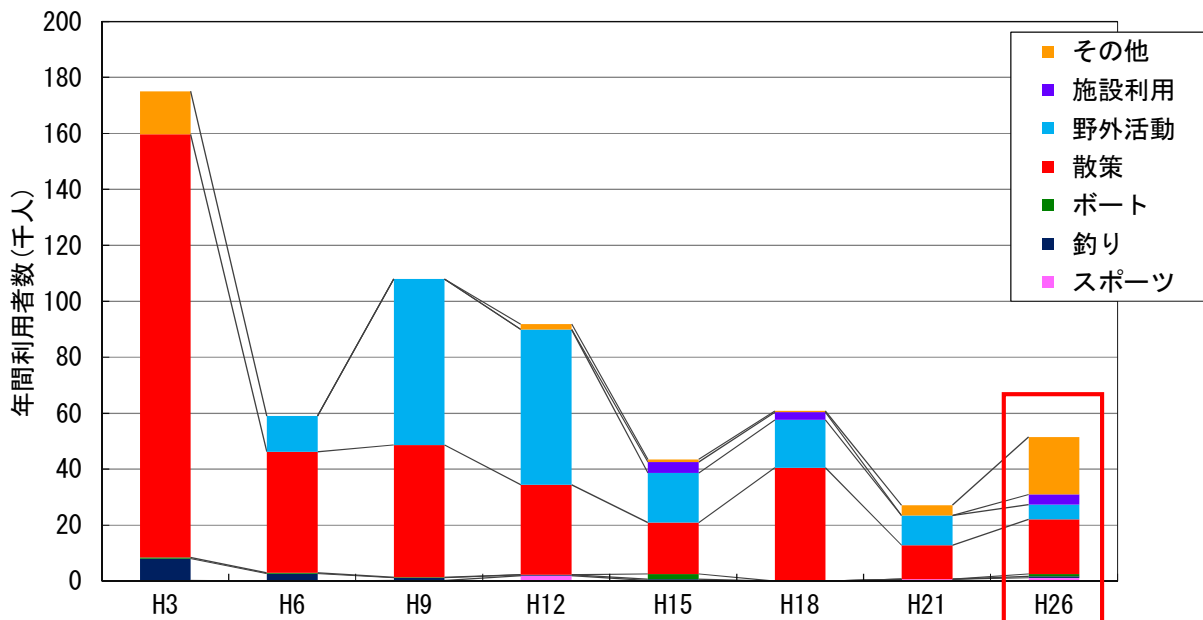


図 7.6-1 ダム湖利用実態調査結果

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～平成26年度】

表 7.6-1 九頭竜ダム湖年間利用状況

	(単位：千人)							
	平成3年度	平成6年度	平成9年度	平成12年度	平成15年度	平成18年度	平成21年度	平成26年度
ダム	96.4 (55.1%)	34.7 (58.8%)	44.1 (40.9%)	31.4 (34.2%)	21.0 (48.4%)	27.5 (45.2%)	14.2 (52.0%)	19.4 (37.7%)
湖面	20.0 (11.4%)	3.0 (5.1%)	1.3 (1.2%)	2.3 (2.5%)	2.6 (6.0%)	0.0 (0.0%)	0.9 (3.3%)	2.3 (4.5%)
湖畔	58.7 (33.5%)	21.3 (36.1%)	62.5 (57.9%)	58.1 (63.3%)	19.8 (45.6%)	33.3 (54.8%)	12.2 (44.7%)	29.8 (57.9%)
合計	175.0	59.0	107.9	91.8	43.4	60.8	27.3	51.5

【出典：河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査編) 平成3年度～平成26年度】

7.7 まとめ

水源地域動態のまとめ及び今後の方針は次のとおりである。

まとめ【評価】

- 「真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会」（平成 18 年 2 月設立）に関連した様々な取り組みについて、関係機関・団体等と連携した施策が実施されており、水源地域等の活性化に寄与している。
- 交通結節点という立地特性により、年間 30 万人程度の人がダム湖周辺施設を訪れている。

今後の方針【改善措置】

- 水源地域ビジョン推進委員会を通じて、地元自治体や関係機関・団体等と連携した取り組みを継続するとともに、関係機関間の情報共有と連携(横のつながり)の強化、各種取り組みの広報等を行っていき、地域との関わりを広げていく。
- 通過交通が多い立地特性を活かし、近接道路の利用者を呼び込む取り組みを推進する。

7.8 文献リスト

「7. 水源地域動態」で使用した文献等を以下に示す。

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」で使用した文献・資料リスト

No.	報告書またはデータ名	発行者	発行年月日	箇所
7-1	大野市勢要覧 ver. 2014	大野市	—	ダムの立地条件
7-2	中部縦貫自動車道のパンフレット	福井河川国道事務所	平成 29 年 10 月	交通アクセス
7-3	ふくい city ナビ	公益財団法人福井観光コンベンションビューロー 福井市おもてなし観光推進室	—	交通アクセス
7-4	国勢調査	総務省統計局	昭和 35 年～平成 27 年	人口・世帯数
7-5	経済センサス	総務省・経済産業省	昭和 44 年～平成 24 年	事業所数
7-6	福井県累年統計表	福井県	昭和 35 年～平成 24 年	就業者数
7-7	九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 17 年 3 月	水源地域ビジョン
7-8	真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン	大野市、 九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 18 年 2 月	水源地域ビジョン
7-9	ダム管理フォローアップ年次報告書作成他業務	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 25～29 年度	地域との交流活動
7-10	九頭竜川流域誌	九頭竜川水系治水百周年記念事業実行委員会	平成 12 年 10 月	ダム周辺環境整備事業
7-11	河川水辺の国勢調査結果(ダム湖利用実態調査)	九頭竜川ダム 統合管理事務所	平成 3 年度～平成 26 年度	ダム湖利用実態調査